

# 登校回避感情と登校・不登校理由から考察する 不登校傾向

○松本直子・片山 緑・北川歳昭  
(就実大学大学院教育学研究科)

## 問題と目的

不登校の増加に伴い、1995年にスクールカウンセラー制度が導入されるなど、不登校の児童生徒への様々な支援が行われてきた。その中で、不登校に至っていない児童生徒の心理理解の重要性に着目した一連の研究がある。森田(1991)は、不登校予防の観点から、「学校に行きたくない」という登校回避感情を抱えている児童生徒は「不登校のグレーゾーン」とし、欠席行動や不登校に至っていない児童生徒のありようも不登校現象の一部であるとした。一方、五十嵐・萩原(2004)は不登校傾向尺度によってそのような児童生徒の心理を捉えようとしている。そこで本研究では、大学生への回顧法質問紙調査より、中学・高校時代の登校回避感情と不登校傾向のパターン(松本ら,2015)の関係を明らかにする。

## 方法

調査対象：O県のS大学・短期大学の学生2～4年生女子133名。調査項目：①登校回避感情の強さ(6件法)、②不登校傾向(松本ら,2015)22項目(6件法)。調査期間と手続き：2016年7月、無記名の回顧法質問紙調査を実施した。質問紙は、中学時代版と高校時代版の二種があり、調査対象にはランダムに振り当てた。中学時代回答者は66名、高校時代回答者は67名であった。

## 結果

1) 登校回避感情：平均値は、中学時代3.9(1.32)、高校時代3.6(1.40)で、両者の間に有意な差はなかった。

2) 不登校傾向尺度得点(表1)：第IV因子(在宅希望)を除き、他の3つの因子はいずれも中学時代の方が高校時代よりも不登校傾向が高い傾向があった。最も高かったのは第IV因子、次は第II因子(遊び・非行)、第III因子(身体症状)、第I因子(別室希望)の順であった。中高間で有意差があったのは、14「……だれかに悪口を言われているような気がしてこわい」、19「……自分のことを笑われているような気が

してつらい」などであった。

3) 登校回避感情と不登校傾向との相関(表1右端)：いずれの因子も、また中学・高校時代のいずれにおいても、不登校傾向と登校回避感情は有意な正の相関がみられた。相関の高さは第III、次に第I、第IV、第IIの順であった。

## 考察

中学時代の登校回避感情は、高校時代よりもやや高い傾向がみられた。また、中学時代の不登校傾向も高校時代よりも全般的に高かった。これらのことは、中学生における学校や教室の居心地の悪さを示唆していると思われる。不登校傾向と登校回避感情の相関が有意であったことで、両者に共通の心理傾向が反映していることが示唆される。

表1 中学・高校時代別不登校傾向尺度得点とその登校回避感情との相関

不登校傾向尺度項目(●は逆転項目修正済み)	平均値(SD)		差の検定結果	登校回避感情との相関係数	
	中学時代	高校時代		中学時代	高校時代
<b>第I因子：別室登校を希望する不登校傾向</b>					
1) クラスですぐすよりも保健室や相談室ですぐす方が気分が落ちつく	2.6(1.36)	2.2(1.40)	+	62***	50***
3) 学校に行っても、保健室や相談室ですぐしたい	2.2(1.50)	1.2(1.46)		54***	55***
4) 保健室や相談室ですぐすよりもクラスですぐす方が楽しい●	2.9(1.56)	2.6(1.53)		56***	34**
7) 学校ではクラスですぐすよりも保健室や相談室ですぐしたい	2.3(1.42)	2.1(1.46)		53***	54***
8) 授業に行かなくても保健室や相談室でも勉強できると思う	2.7(1.33)	2.8(1.42)		29*	42***
13) 教室に行かなくても保健室や相談室で勉強できればいいと思う	2.7(1.31)	2.5(1.44)		44**	52***
14) 学校へ行くと、だれかに悪口を言われているような気がしてこわい	3.1(1.53)	2.3(1.34)	**	60***	45***
18) 学校では、友達と話をするよりも、保健室や相談室の先生と話したい	2.2(1.34)	2.0(1.30)		49***	56***
19) 学校に行くとき誰かがクスクスと笑っていて、それは自分のことを笑われているような気がしてつらい	2.9(1.54)	2.1(1.46)	**	63***	47***
21) 学校では、授業より、保健室や相談室の先生と話したい	2.2(1.26)	1.2(1.35)		44**	50***
第I因子10項目の平均					
	2.6(1.13)	2.3(1.19)		66***	59***
<b>第II因子：遊び・非行に関する不登校傾向</b>					
2) 仲のいい友達とすぐすときは学校ですぐすよりも、自分の家や友達の家で過ごす方が楽しい	3.2(1.34)	3.0(1.46)		23+	31*
6) 仲のいい友達とすぐすときは学校や自分の家で過ごすよりも、友達の家で過ごす方が楽しい(表現修正)	3.2(1.23)	2.9(1.34)		07	14
12) 学校で友達と遊ぶよりも家で友達と遊びたい	3.2(1.34)	2.8(1.39)		34**	30***
17) 学校に行かず、家で友達と遊んでいたい	3.9(1.58)	4.0(1.48)		61***	53***
22) 学校へ行ったり家に行ったりするより、それ以外の場所で友達とずっと遊んでいたい	3.1(1.37)	3.0(1.46)		18	05
第II因子5項目の平均					
	3.3(0.87)	3.2(1.00)		48***	38**
<b>第III因子：身体症状を伴う不登校傾向</b>					
5) 日曜日、明日から学校だと思つとゆうつな気分になる	4.5(1.19)	4.3(1.36)		65***	46***
9) 学校に行かなくてはと思うと気分が落ち込み、つらくなる	3.3(1.44)	3.2(1.38)		68***	61***
10) 夜遅くまで外で遊んでいて、学校に行くのがつらいと思うことがある	2.2(1.33)	2.3(1.39)		12	34**
11) 学校へ行くことを考えると頭が痛くなったり、気持ちが悪くなるが、学校へ行かなくてよくなる症状はなくなる	2.7(1.56)	2.5(1.56)		51***	49***
16) 学校に行くことを考えたら、頭が痛くなったり、気持ちが悪くなったりすることがある	2.7(1.43)	2.5(1.51)		57***	55***
第III因子5項目の平均					
	3.1(1.05)	2.3(1.13)		67***	63***
<b>第IV因子：在宅希望する不登校傾向</b>					
15) 家ですぐすよりも学校ですぐす方が楽しい●	3.8(1.40)	3.8(1.33)		48***	47***
20) 先生や友達と会いたいのので、家にいるより学校に行きたい●	3.4(1.38)	3.7(1.38)		43**	23+
第IV因子2項目の平均					
	3.6(1.29)	3.7(1.18)		49***	40***

\*p<.10 \*\*p<.05 \*\*\*p<.01 \*\*\*\*p<.001